2026 第 10 回小野寺眞悟杯
北海道特別支援学校フットサル大会
第5回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会

主催（公財）明日佳　　共催（公財）日本ライオンズ

後援　スポーツ庁　全国特別支援学校長会
　　北海道教育委員会　江別市　江別市教育委員会
主管　札幌北の杜ライオンズクラブ　エスポラーダ北海道
協力　学校法人北翔大学　医療法人明日佳
　　北海道特別支援学校長会　札幌北の杜ライオンズクラブ
　　公益財団法人北海道サッカー協会

公益財団法人明日佳

ご挨拶

公益財団法人明日佳
理事長　小野寺　眞悟

このたび、「第10回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」を、盛会のうちに開催することができましたことを心より御礼申し上げます。本大会の開催に際し、関係各位の温かなご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

今年度は、北翔大学の浅井記念体育館を会場として、同大学のご厚意により快適な環境のもとで大会を開催することができました。特に、エアコンの効いた体育館で生徒たちは心から喜び、笑顔にあふれた爽やかな大会となりました。昨年までの暑さによる体調への心配もなく、まさに「思いやりのある環境」が競技の質を高めてくれたと感じております。北翔大学の山谷理事長様はじめ体育関係者の皆様の温かなご配慮に改めて深く感謝申し上げます。

本大会は、生徒たちが主体的に判断し、協力し合い、自立した行動を育む場として運営しております。このことから、監督やコーチの指示を排除し、生徒自身の力を尊重する形式は、卒業後の社会で互いに尊重し合いながら生活していくための大切な一歩です。今年度は、北海道内 21 校が集い、技術と心の交流を通じて「RESPECT」の精神を体現してくれました。 試合の中で見られた挨拶や礼儀、他者を思いやる態度は、生徒たちが未来へ踏み出す確かな基盤となることでしょう。

最後になりましたが、記念誌の発刊にあたり、北海道教育委員会、北海道特別支援学校長会、北翔大学、江別市、札幌北の杜ライオンズクラブをはじめとする皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。公益財団法人明日佳は、今後も青少年の「夢と希望」の実現に向けて、教育・福祉・スポーツの現場を力強く応援してまいります。

祝　辞

江別市長　後藤　好人

「第10回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」並びに「第５回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会」が、盛会のうちに終了し、このように記念誌として発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。 また、全道各地から参加された選手の皆様、監督・コーチ、学校関係者、そして大会運営に携わられた多くの皆様に、江別市民を代表して深く敬意と感謝を申し上げます。

本大会は、節目となる第10回を数え、これまでの歴史の中で、多くの感動的な試合が生まれ、スポーツを通じた心温まる交流が育まれてきました。今回も生徒の皆様が仲間と力を合わせ、最後まで諦めずにボールを追いかける姿は、観る者の心を強く揺さぶり、未来への希望を感じさせてくれるものでした。

今年度は北翔大学の浅井記念体育館を会場として開催されました。冷房設備の整った快適な環境のもと、生徒の皆様が安心して競技に臨むことができたことは、江別市としても大変嬉しく思います。 北翔大学の皆様には、本大会の趣旨にご賛同いただき、素晴らしい施設を快くご提供いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。生徒の皆様が笑顔でプレーし、爽やかな風が体育館いっぱいに広がったことは、北翔大学の温かなご厚意の賜物であります。

試合が終われば、共に全道の舞台で戦った仲間です。互いの健闘を称え合い、学校の枠を超えた友情の輪が広がっていく姿は、江別市としても誇りに思うところであります。 この大会で育まれた絆は、生徒の皆様がこれから歩む人生において、かけがえのない力となることでしょう。

結びになりますが、本大会の成功に向けてご尽力いただいた多くの皆様方と北翔大学には心より敬意と感謝を申し上げますとともに、選手の皆様が本大会で得た経験を胸に、未来へ力強く羽ばたいていかれることを心より祈念し、記念誌発刊にあたる祝辞といたします。

祝　辞

学校法人北翔大学
理事長　山谷　敬三郎

このたび、「第10回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会」並びに「第５回全国特別支援学校フットサル大会北海道地区大会」が、無事に盛会のうちに終了いたしましたことを、心より嬉しく、また誇りに感じております。

本学の浅井記念館を会場として開催された本大会は、参加された生徒の皆さんが、笑顔で競技に臨み、仲間とともに充実した時間を過ごされたことは、私たちにとって何よりの喜びであります。

生徒の皆さんからは、体調への心配もなく、今年は爽やかな空気の中で、安心して力を発揮することができたと伺っております。

本学は「スポーツ、福祉、教育・保育、芸術、心理」を柱に、地域社会に根ざした人材育成を進めてまいりました。本道の特別支援学校で教鞭をとる教員の多くが本学の卒業生であることは、私たちにとって大きな誇りであり、今回の大会を通じて、その卒業生たちが日々指導する生徒の皆さんの「学びの成長の場」として本学を提供できたことは、まさに教育の循環として意義深いものと感じております。

私は、この大会が、本学卒業生への「心の贈り物」となり、本学の教育の絆をさらに深める機会となれたものと、心から嬉しく思います。

また、本大会を通じて、本学の学生にとっても、特別支援教育の現場を理解し、実践的な学びを得る貴重な機会となりました。今後も本学として、こうした大会を教育実践の場として活用し、学生が特別支援学校教員としての使命と責任を体感できるような機会を積極的に提供してまいりたいと考えております。

最後に、生徒の皆さんがこの大会で得た経験を胸に、未来へと力強く歩んでいかれることを願い、記念誌へのご挨拶といたします。

祝　辞

（公財）日本ライオンズ
理事・事務局長
片山　雅裕

第10回小野寺眞悟杯は、特別支援学校の生徒の皆さんに寄せる深い愛情と、その理解に基づくきめ細やかな支援の結晶として、生徒たちが安心して力を発揮できる環境を整えることができ、関わるすべての人々の心を打ち、忘れがたい感動として私共の個々に蓄積されております。

特に、今年度の第10回大会は、北翔大学浅井記念体育館を会場として開催されました。 エアコンの整った素晴らしい施設をご提供いただいた北翔大学の皆様の温かなご厚意により、生徒の皆さんは爽やかな環境の中で競技に臨むことができました。昨年までの酷暑による体調への心配が払拭され、生徒たちが笑顔でプレーする姿が体育館いっぱいに広がったことは、開催に携わる者として大きな喜びであります。この場をお借りして、北翔大学の皆様に深く感謝申し上げます。

また、本大会の運営にあたり、札幌北の杜ライオンズクラブの皆様には、全面的なご尽力を賜りました。会場設営、競技補助、選手支援、広報活動など、多岐にわたる献身的なご協力は、本大会の成功を力強く支えてくださいました。ライオニズムの精神である「We Serve」を体現するその姿勢は、参加生徒・学校関係者・保護者の皆様に大きな安心と感動をもたらし、心より敬意を表する次第です。

スポーツは、共に汗を流し、互いに励まし合い、喜びや苦しみを分かち合う中で、生徒たちの主体的で自発的な力を育み、心の成長を豊かに促すものです。本大会が、参加生徒、学校関係者、保護者、そしてライオンズクラブ関係者の皆様、すべての方々のお力添えにより、記憶に深く刻まれる思い出深い一日となりましたことを、心より嬉しく思います。

結びに、今大会の開催にあたりご支援を賜りましたすべての皆様に深く感謝申し上げるとともに、生徒の皆さんが本大会で得た経験を胸に、未来へ力強く歩んでいかれることを心より祈念し、記念誌発刊のご挨拶といたします。

大会成績

第10回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会（結果）

【 カテゴリーⅠ 】 順位決定リーグ

	第1試合	第2試合	第3試合	交流	交流	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
平取	ほしみ × 0 － 4	ほしみ × 1 － 2	ほしみ × 0 － 4	ほしみ × 0 － 5	ほしみ × 1 － 7	0	0	3	0	-9	2
ほしみ	平取 ○ 4 － 0	平取 ○ 2 － 1	平取 ○ 4 － 0	平取 ○ 5 － 0	平取 ○ 7 － 1	3	0	0	9	9	1

【 カテゴリーⅡ 】 予選リーグ

＜Aブロック＞

	小樽	白樺	今金	紋別	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
小樽		× 0 － 10	× 0 － 1	× 1 － 5	0	0	3	0	-15	4
白樺	○ 10 － 0		○ 4 － 1	○ 6 － 1	3	0	0	9	18	1
今金	○ 1 － 0	× 1 － 4		× 0 － 1	1	0	2	3	-3	2
紋別	○ 5 － 1	× 1 － 6	○ 1 － 0		2	0	1	6	0	3

＜Bブロック＞

	みなみの杜	千歳	幕別	札幌	豊明	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
みなみの杜		○ 1 － 0	○ 7 － 0	○ 3 － 0	△ 1 － 1	3	1	0	10	11	2
千歳	× 0 － 1		○ 5 － 0	○ 2 － 0	× 1 － 4	2	0	2	6	3	3
幕別	× 0 － 7	× 0 － 5		× 1 － 3	× 0 － 10	0	0	4	0	-24	5
札幌	× 0 － 3	× 0 － 2	○ 3 － 1		× 0 － 4	1	0	3	3	-7	4
豊明	△ 1 － 1	○ 4 － 1	○ 10 － 0	○ 4 － 0		3	1	0	10	17	1

＜Cブロック＞

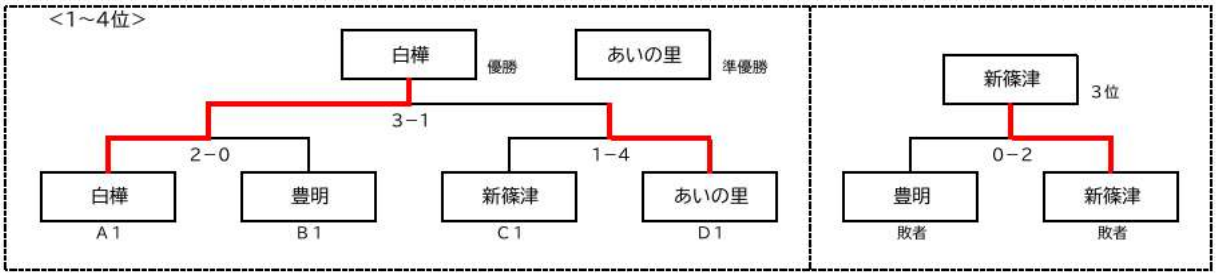
	伊達	高等聾	新篠津	中標津	あいべつ	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
伊達		△ 0 － 0	△ 1 － 1	○ 4 － 0	○ 3 － 0	2	2	0	8	7	3
高等聾	△ 0 － 0		△ 1 － 1	○ 11 － 0	○ 3 － 0	2	2	0	8	14	2
新篠津	△ 1 － 1	△ 1 － 1		○ 13 － 0	○ 6 － 0	2	2	0	8	19	1
中標津	× 0 － 4	× 0 － 11	× 0 － 13		× 1 － 2	0	0	4	0	-29	5
あいべつ	× 0 － 3	× 0 － 3	× 0 － 6	○ 2 － 1		1	0	3	3	-11	4

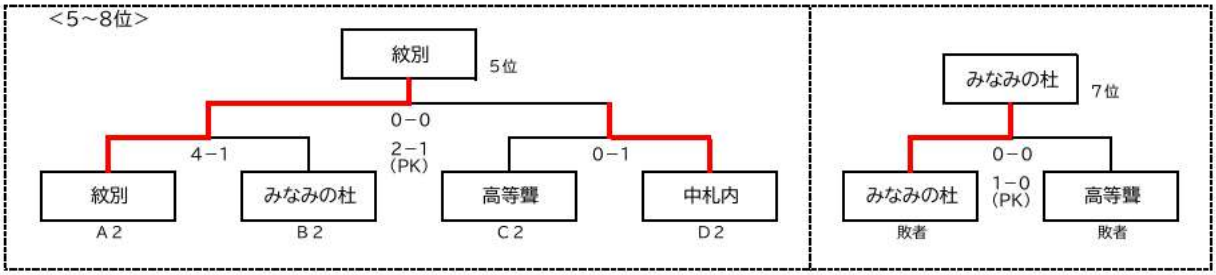
＜Dブロック＞

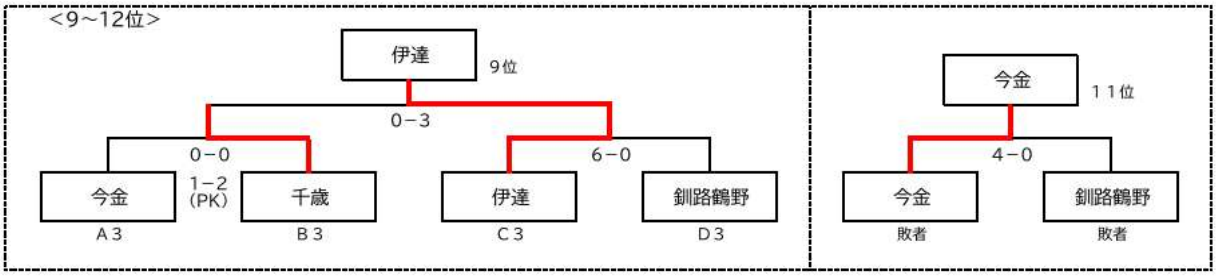
	函館	小平	釧路鶴野	中札内	あいの里	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
函館		△ 0 － 0	△ 1 － 1	× 0 － 2	× 0 － 3	0	2	2	2	-5	4
小平	△ 0 － 0		× 3 － 4	× 0 － 10	× 0 － 10	0	1	3	1	-21	5
釧路鶴野	△ 1 － 1	○ 4 － 3		× 0 － 10	× 0 － 6	1	1	2	4	-15	3
中札内	○ 2 － 0	○ 10 － 0	○ 10 － 0		× 0 － 5	3	0	1	9	17	2
あいの里	○ 3 － 0	○ 10 － 0	○ 6 － 0	○ 5 － 0		4	0	0	12	24	1

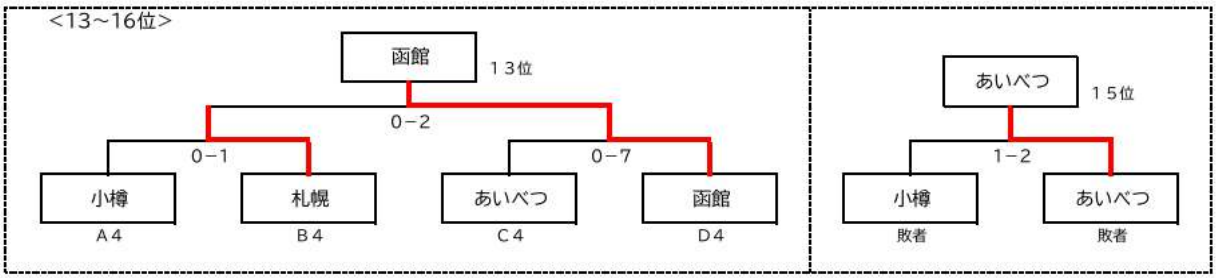
第10回小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会（結果）

【カテゴリーⅡ　順位決定トーナメント／リーグ戦】









<17~19位>　リーグ戦

	幕別	中標津	小平	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
B5 幕別		× 1 − 2	× 2 − 3	0	0	2	0	-2	19
C5 中標津	○ 2 − 1		× 0 − 2	1	0	1	3	-1	18
D5 小平	○ 3 − 2	○ 2 − 0		2	0	0	6	3	17

【最終順位】

<カテゴリーⅠ>

優勝	ほしみ
準優勝	平取

<カテゴリーⅡ>

優勝	白樺	6位	中札内	11位	今金	16位	小樽
準優勝	あいの里	7位	みなみの杜	12位	釧路鶴野	17位	小平
3位	新篠津	8位	高等聾	13位	函館	18位	中標津
4位	豊明	9位	伊達	14位	札幌	19位	幕別
5位	紋別	10位	千歳	15位	あいべつ		

第10回大会参加者の集合写真

小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会　履歴

回／年度	参加校数	優　勝	準優勝	第３位
第１回 （2017年）	１６校	白樺高等養護学校	高等聾学校	札幌豊明高等支援学校 韓国安東永明学校
第２回 （2018年）	Ⅰ　５校 Ⅱ　２１校	平取養護学校ペテカリの園分校 新篠津高等養護学校	帯広養護学校 高等聾学校	南幌養護学校 今金高等養護学校
第３回 （2019年）	Ⅰ　４校 Ⅱ　２３校	帯広養護学校 新篠津高等養護学校	平取養護学校ペテカリの園分校 今金高等養護学校	南幌養護学校 札幌あいの里高等支援学校
第４回 （2020年）	新型コロナウィルス拡大の為		大会の開催を中止	
第５回 （2021年）	新型コロナウィルス拡大の為		大会の開催を中止	
第６回 （2022年）	Ⅰ　１校 Ⅱ　１４校	帯広養護学校 中札内高等養護学校	札幌あいの里高等支援学校	新篠津高等養護学校
第７回 （2023年）	Ⅰ　１校 Ⅱ　１８校	星置養護学校ほしみ高等学園 市立札幌みなみの杜高等支援学校	中札内高等養護学校	高等聾学校
第８回 （2024年）	Ⅰ　２校 Ⅱ　１８校	平取養護学校 札幌あいの里高等支援学校	星置養護学校ほしみ高等学園 市立札幌みなみの杜高等支援学校	中札内高等養護学校
第９回 （2025年）	Ⅰ　２校 Ⅱ　１８校	平取養護学校 白樺高等養護学校	星置養護学校ほしみ高等学園 中札内高等養護学校	札幌あいの里高等支援学校
第 10 回 （2026 年）	Ⅰ　２校 Ⅱ　１９校	星置養護学校ほしみ高等学園 白樺高等養護学校	平取養護学校 札幌あいの里高等支援学校	新篠津高等養護学校

※「参加校数」欄　Ⅰ：カテゴリーⅠ　Ⅱ：カテゴリーⅡ

カテゴリーⅠ　優勝

北海道星置養護学校ほしみ高等学園

監督　大塚　奈々

本校は今年、７名の選手で大会に臨み、優勝することができました。今回で４年目の参加となりますが、これまでは人数をそろえることが難しく、この優勝を大変うれしく思います。１年生が多いチームでしたが、３年生がチームをまとめ、全員が生き生きとゴールに向かって走る姿はとても頼もしいものでした。

練習は週１回のサークル活動が中心で、教員や有志の生徒との練習試合も行い、大会に備えました。大会後は「４点取りました」「足でゴールを守ったよ」と自分の活躍をうれしそうに話す姿や、自分に自信が持てなかった生徒の前向きな言動が増え、得意なことで活躍できる経験が生徒の成長につながることを改めて感じました。

なかなかルールを覚えるのも難しい生徒たちの実態に応じて、試合中のコーチングにも柔軟に配慮していただき、生徒も教師も安心して試合ができました。この喜びと挑戦を来年へつないでほしいと思います。主催者の皆様、送迎・応援をしてくださった保護者や先生方、そして３年間変わらず参加してくださった平取養護学校の皆様に心より感謝申し上げます。

準優勝

北海道平取養護学校

監督　大辻　幸希

第10回小野寺眞悟杯特別支援学校フットサル大会に参加し、選手たちは日頃の練習の成果を発揮し、最後まで諦めずにプレーすることができました。大会に向けては、技術の向上だけでなく、チームで声を掛け合うことや、一人一人が自分の役割を意識してプレーすることを大切に練習に取り組みました。

大会を目標に練習を重ねる中で、挨拶や返事、仲間への声掛けなど、学校生活の中でも成長する姿が見られました。また、自分から準備や片付けに取り組むなど、自ら考えて行動する場面が増え、主体性の高まりを感じました。試合でも状況を考えながらプレーし、互いに励まし合いながら最後まで戦う姿から、協調性や責任感の成長を感じることができました。

本大会は、競技力の向上だけでなく、仲間と協力し、目標に向かって努力することを学ぶ貴重な機会となっています。生徒たちの成長を感じるとともに、指導者としても生徒を信じて成長を支えることの大切さを学びました。

結果は準優勝となり、悔しい思いをした生徒もいましたが、その悔しさを次への力に変え、来年度は優勝を目標に、チーム一丸となって練習に取り組んでいきたいと思います。

カテゴリーⅡ　優勝

北海道白樺高等養護学校

責任者　濱谷良介　　監督　赤澤　有輝

昨年の全国大会で得た経験（全国第５位）を確かな土台とし、チーム内での共通理解を深めること、現実（Reality）を直視することを大切にして本大会に備えて来ました。技術やフィジカルに差がある選手たちが目標達成に向けて一つにまとまり、必要なことを自ら考え、それらを仲間と共有しながら歩んできた日々が今大会での優勝につながったと思います。

決勝の相手は昨年準決勝で対戦した札幌あいの里高等支援学校でした。試合前のミーティングでは、「チャンスは必ず訪れる。失点もある。しかし、大切なのはその後にどう声を掛け合い、勝ちに向かうかだ。最後には全国に行きたいと強く思い続けた者が勝つ」と伝えました。何度も訪れたピンチ、失点の場面でも下を向かず、試合終了の笛が鳴るまで声を掛け合い続けたことこそが勝因だと思います。

特に11番の生徒はシュートの強さがストロングポイントですが、辛抱強く守備に徹したこと、そして周囲を動かすコーチングでチームを支えてくれました。全国大会では試合強度がさらに増すため、運動量やスプリントを繰り返す力の向上が期待されるところです。

昨年の全国大会を経験した３名の上級生は、全国のレベルを肌で感じたことで自らの課題に真剣に向き合う姿勢が強まり、チーム全体の成長を牽引する役割を果たしてくれました。昨年の中心選手たちが築いたチームのベースに加え、今年の選手たちが「自分たちも全国を目指す」という強い意志を重ねたことで、今年のチーム力は一段と高まったと言えます。限られた練習時間の中ですが、より強度の高い試合に耐えうる準備を進め、昨年以上の成績を目指していきたいと思っています。

この大会では試合中のコーチングが禁止されています。指導者は試合中にコーチングできないことを予め伝え、チームづくりを進めていきました。試合を重ねるごとに選手たち球際の強さが増し、気持ちの入ったプレーに繋がっていきました。好きなこ

とで目指すものがあることは、選手たちにとって大きなモチベーションになります。それは学業や生活に良い影響を与え、自己指導する力を育む契機となります。そうした環境を整えてくださることに対し、指導者として深く感謝いたします。

主将　小堀　　司

みんなで気持ちを一つにし、声を掛け合いながら大会に臨めたことが２年連続優勝につながったと思います。

キャプテンということをプレッシャーに感じることはあまりなく、キャプテンの自分だけが頑張るのではなく、３年生が中心となって、チームを引っ張り練習に取り組めました。練習では特に声出しやポジショニングなどを意識して取り組んで来ました。

あいの里戦では、相手の方がレベルが上なのは分かっていました。きっちりマークをし、抜かれてもカバーをすること、諦めずに走りきること、体を張ることを意識して戦うことができました。決勝では今まで以上に声を出し、一生懸命戦うことができました。

チームは３年生が中心で、１・２年生を引っ張っています。練習では、どのように戦うか、意識するところはどこか、自分たちで話し合いながら取り組んでいます。しつこいディフェンスや泥臭いプレーがチームの持ち味だと思います。

昨年、全国大会を経験したことで、以前より全国大会を意識した生活をすることができました。授業への取り組み方や部活への意欲など変化が見られました。特に僕たち３年生は最後なので、全国大会を目指して活動をすることができたと思います。

全国大会ではグループリーグ１位突破が目標です。昨年は得失点差でグループリーグ２位と悔しい思いをしたので、今年はグループリーグを１位で突破したいと思います。個人としてはしつこくディフェンスをし、相手にシュートを打たせないようにしてチームの勝利に貢献したいです。

準優勝

北海道札幌あいの里高等支援学校

監督　笹本　大輔

「悔しい。でも確かな成長があった」

この大会を終えて、感じている素直な思いです。結果は準優勝。決勝では、昨年も敗れた白樺高等養護学校に再び敗れ、本当に悔しい思いの残る大会となりました。しかし、今大会で生徒たちの確かな成長と「これが今の自分たちの力である」ということを感じることができました。

初戦の中札内戦では、難しい初戦に強い気持ちを持って入り、ベンチ、サポートメンバーの応援もあり、素晴らしい雰囲気をつくりながら勝ち切ることができました。

準決勝、新篠津戦では、先制した後に追いつかれる苦しい展開となりましたが、気持ちを切らさず、逆転、追加点を重ね、厳しい状況を勝ちきる、「勝負強さ」を感じることができました。

３年生は、１年生の時にこの大会で全国準優勝を経験し、「今年こそ全国へ！」という思いを強く持っていました。３年生だけでなく、１、２年生からも、ケガによって今大会に間に合わなかった仲間を「何としても全国の舞台に連れていきたい」という強い思いが感じられました。仲間を思い、仲間のために戦ったり、敗戦を心から悔しがる姿、涙を流しながら仲間に声をかける姿など、人として成長した姿が見られたことは、今後のチームにとって大きな財産です。

登録メンバー８名だけでなく、サポートメンバーを含めた25名全員でチームのために一体感を持って臨む姿勢はこれからも、「あいの里らしさ」として大切にしていきます。そして、次の目標である「もうひとつの高校選手権」全国優勝に向かって、走り続けます。

最後に選手、指導者、そして観ている人たちの心を熱くし、感動を与えてくれ、生徒や私たち指導者を成長させてくれるこの素晴らしい大会を運営してくださった皆様に心から感謝いたします。

主将　澤　健太

今大会を振り返ると率直に悔しいです。やはり去年も負け、３年生として最後の大会なので、絶対に全国へ行くという気持ちで仲間と練習に励んできました。苦しい練習にも耐え、頑張ってきた中で負けという結果で終わってしまったので、悔しいです。

決勝戦の戦術は、どの学校にも上手い人がいるので、誰が誰につくか相手の試合を見て、みんなで決めていきました。その結果、最初に先制点を入れられたが下を向かず、サポートメンバーも含め全員で鼓舞することができました。一人一人が一生懸命練習してきましたが、あと一歩、技術的な面で足りない部分がありました。個々の技術の向上がまだまだと感じています。

３年生になり、去年とは違って、キャプテンという立場になったので、普段の練習の中で、ゲーム後に自分から声をかけてみんなで話し合いを重ねてきました。今までやってきたことを活かして決勝までやってきましたが、決勝ではチームの中で自分がボールをキープする時間が多く、仲間のみんなはもっとできたように感じています。

それでも、チームの良さである声の大きさと気持ちの強さは今大会を通して発揮できたと感じています。他校よりもメンバーがいるので負けないようにとサポートメンバーも一丸となって頑張れるところは、これからも引き継いでいってほしいと思っています。

これからも学校生活全般で決まりを守ることや時間に遅れないことなど、できることを当たり前に行い、来年度に向けて前を見て、サッカーと向き合っていきたいと思います。

３位

北海道新篠津高等養護学校

監督　郡谷　凌平

まずは、目標としていた全国大会には一歩届かなかったものの、久々に３位入賞という結果で大会を終えることができ、非常に嬉しく思っております。

今大会は１年生を含めた８名で挑みました。まだ競技経験の浅い１年生が、球際で決して引かずに戦う姿には胸を打たれました。上級生も、試合中の声掛けやベンチからの鼓舞、作戦会議での積極的な発言で見事にチームを引っ張ってくれました。

今季は攻撃の連携とポジショニングを意識した練習を重ね、得点パターンを増やしてきました。予選では先制後に追いつかれ、一時は逆転を許しながらも泥臭く追いつく場面や、勝ち点が必要な負けられない試合で粘り強く引き分けに持ち込むなど、粘り強い守備と個々の得点力で予選を突破してくれました。

一方で、全国大会へ勝ち進むための土壇場での判断力やゲームコントロールの面では、まだ課題が残ります。今大会で得た成果と足りなかった部分をしっかりと整理し、来季に向けてより質の高いチーム作りを目指してまいります。

試合中のコーチングが禁止されているからこそ、ピッチ上で生徒同士が声を掛け合い、主体的に判断して戦う姿に大きな頼もしさを感じました。全国という高い目標がある環境が、生徒たちの意識を変え、日頃の学校生活における自主性や責任感を大きく育んでいます。今後もこの経験を糧にさらなる成長を目指します。熱いご声援、ありがとうございました。

主将　古宮　椎真

まずは、目標だった全国大会には届かなかったものの、最後に３位という結果で大会を終えることができ、とても嬉しく思っています。

３位決定戦の豊明さんは守備が固く、なかなか得点が奪えない苦しい試合でした。しかし、練習してきた「パスを出してからフリーでもう一度受けて打つシュート」や「キーパーからのロングボール」を活かし、自分たちの狙い通りの形で得点して勝ち切ることができました。準決勝で敗れた直後は悔しかったですが、「絶対に負けたくない、最後は勝ち切って終わろう」とみんなで声を掛け合い、気持ちを強く持って挑めたことが勝因だったと感じています。

昨年は得点力が足りず、接戦で競り負けて予選敗退という悔しい思いをしました。その悔しさを糧に、今季は特に得点力を磨くトレーニングに力を入れてきました。本番ではその成果を発揮し、最後まで粘り強く戦い抜くことができたと感じています。

今のチームは、個々の技術の高さとフィジカルの強さではどのチームにも負けない自信があります。

また、全国大会という高い目標をもって練習に取り組むことで、挨拶や規律といった日頃の学校生活での意識も変わり、一人ひとりが自律して行動できるようになりました。この大会で得た成果と届かなかった悔しさを決して忘れず、次の目標に向かってチーム一丸となり、さらに成長した姿を見せられるよう努力していきます。

４位

市立札幌豊明高等支援学校

顧問　鈴木　咲弥果

今大会、本校は４位という結果に終わりましたが、その中でもグループリーグを１位で通過できたことは選手にとっても自信につながったのではないかと思っています。順位決定戦のトーナメントでは、先制点を取られることも多く厳しい戦いとなりましたが、メンバー外の選手の分まで、諦めずに戦い続ける姿が見られました。選手たちも「諦めないことの大切さ」や「仲間やチームのために戦うことの大切さ」について学ぶことができたのではないかと思います。

今大会の前は屋外での大会が多かったため、大会直前にフットサルの練習に切り替えました。サッカーとフットサルの違いに戸惑いを感じている選手もいたため、パスやトラップ、コースを意識したシュート練習など基礎的なトレーニングを重点的に行いました。本校は小野寺眞悟杯において３位が最高成績だったため今回、３位以上を目標にしていました。４位という結果に悔し涙を流す選手もいました。それほど強い気持ちで試合に臨んでいたということに我々指導者も改めて気づき、「選手たちを勝たせたい」と思わせてくれました。今回の大会を踏まえ、来季は３位以上の結果を残せるよう日々の練習に励んでいきたいと思います。

５位

北海道紋別高等養護学校

顧問　酒井　　駿

今大会は、予選リーグを２位で通過し、順位決定トーナメントを経て、最終的に５位という結果となりました。選手たちは最後まで諦めず、仲間と声を掛け合いながら粘り強く戦う姿を見せてくれました。大会に向けては、基本技術の向上に加え、攻守の切り替えや状況に応じた判断、仲間との声掛けを意識し、「自分たちで考えてプレーすること」を大切に練習を重ねてきました。また、勝敗だけにとらわれず、仲間を尊重し、最後まで全力で取り組むことを共通の心構えとして大会に臨みました。大会期間中は、挨拶や時間を意識した行動、仲間を気遣う姿など、競技面以外でも成長が見られました。試合に出場する選手だけでなく、それぞれが自分にできることを考え、チームのために行動する姿も印象に残っています。

また、本大会では生徒の自主性を高めるため、試合中の教員によるコーチングが禁止されています。教員が答えを与えるのではなく、選手自身が状況を見て、仲間と相談し、判断する経験には大きな教育的意義があると感じました。勝敗だけでなく、自ら考え、責任をもって行動する力を育てられることが、この大会の大きな価値だと感じました。

６位

北海道中札内高等養護学校

サッカー部担当　鹿野　純汰

まずは、大会長の小野寺眞悟様をはじめ、実行委員長の鈴木重男様、札幌北の杜ライオンズクラブ様などの多大なサポートのおかげで大会に参加させていただけることに感謝いたします。

昨年度までの４年連続１位トーナメント進出継続を目指して日々の練習に取り組んできました。大会に参加できなかった仲間、いろいろなところから応援してくれている方、大会を開催してくれた方々など「誰かのために！」全力でプレーすることを共有して大会に臨みました。

３年生の経験力、２年生の成長力、１年生の挑戦力が目立つとても有意義な大会となりました。大会のコンセプトでもある「自立とRESPECT」の精神を今後の学校生活でも意識して、将来の豊かな人生と応援され続ける人を目指して今後も様々なことへの挑戦と成長を促していきたいと思います。

7 位

市立札幌みなみの杜高等支援学校

顧問　藤本　　望

大会は７位という結果でした。大会前の練習姿勢や大会後の悔しい表情から「もっと上に行きたかった」という思いが伝わってきました。チームで大切にしているのは、「楽しんでプレーすること」です。試合前にはシンプルな言葉を２つ、３つ伝え、試合中もあえてコーチングをせず、選手間で考え、声を掛け合いながら流れをつかむことを大切にしました。不安げにこちらを見る選手もいましたが、見守ることも指導の一つ。大きな声でプラスの言葉をかけたい気持ちを抑えるのは正直苦しかったです。それでも、苦しい流れを何度も自分たちで打開し、予選リーグを負けなしで戦えました。ケガで出場できない選手もスタンドから仲間を応援し、チームで戦う姿に逞しさを感じました。

この大会が、サッカー人、社会人として成長する機会になったと感じています。選手を信じて見守ることは、私たち指導者にとっても学びとなりました。運営に携わってくださった皆様に心より感謝いたします。多くの方々に支えられ、全道のサッカー仲間が一堂に会する、熱い一日が終わりました。来年度は、この悔しさを力に変え、楽しむことを大切にしながら、更に成長してこの場に戻ってきたいです。

８位

北海道高等聾学校

サッカー部顧問　中島　和也

今年は、サッカー部２名と他の部活からのサポートメンバー４人を含む計６人で今大会に参加しました。昨年度も経験している部員を中心に優勝を目指し、大会までの期間は「シュートを打たせない、失点をしない」をテーマに徹底的に守備練習を行い、自分たちの守備に自信をもって大会に挑みました。

本校生徒は、聴覚に障害がある聾学校の生徒です。練習中は補聴器を付けているため多少の音や気配を感じ取ることはできますが、試合中は補聴器を外さなければいけないため全く聞こえず、周りの気配を感じ取ることが難しい生徒もいます。そういったことを想定し、練習中から「試合に向けて補聴器を外していいですか」と主体的に行動する生徒の様子を見ることができ、成長を感じました。また、試合中のコーチングができないことをプラスに考え、戦術について練習中から選手と顧問との共通理解をしっかり行い、試合中はチームリーダーにフィールドの監督になってもらうなど、選手個々の自主性・協調性・リーダーシップなどたくさんの学びを得ることができました。

来季こそ決勝トーナメントに進出し、その先を勝ち取れるよう日々の練習に励んでいきます。

９位

北海道伊達高等養護学校

サッカー部顧問　上野　　樹

計６試合を戦い抜き、決勝トーナメント常連校とも試合をする中で、４勝２分でした。無敗かつトータル１失点のみという結果で終えることができただけに、順位と結果が伴わなかったことが悔やまれます。生徒は優勝という目標を胸に奮闘し、結果こそ結びつきませんでしたが、自分たちが取り組んできたことをやりきったという達成感にあふれた顔をしていました。

本校では「全校から応援されるサッカー部」をキーワードに、挨拶や規範意識などの学校生活の過ごし方を指導しています。宿舎までの移動時には、引率の指示を聞き漏らさずに行動しようという姿勢が見られ、学校を背負う意識が養われたのではと感じています。また、暑さ対策がされた素晴らしい環境の試合会場並びに宿舎を利用させていただき、大会に参加できる喜びを感じていました。

運営の方々におかれましては、宿泊施設並びに大会の管理と格別のご配慮をいただき、大変お世話になりました。

10 位

北海道千歳高等支援学校

監督　豊島　猛志

今大会は10位という結果でしたが、少しずつ順位を上げており、確かな手応えを感じています。短い準備期間の中、放課後にフットサルに興味がある生徒や体を動かしたい生徒が集まり、楽しみながらも真剣に練習に臨んできました。

大会を通じて生徒たちは大きく成長しました。日頃の授業で行っている清掃作業の経験を活かし、「会場を提供してくださった北翔大学様に迷惑をかけず、施設を綺麗に使おう」と伝えたところ、当日は生徒自身がそのことを意識して行動できたことは勝敗以上の大きな成果です。

また、試合中のコーチング禁止というルールのもと、生徒たちは試合の合間に自ら考えを共有し合いました。一戦ごとに自分たちで課題を修正し、対応力を高めていく姿に自主自立の芽生えを感じ、指導者としても「生徒を信じて見守る」ことの意義を深く学びました。

近年、本大会のことが校内の生徒や職員にも認知され、様々な形で協力をいただけるようになったことに感謝しています。今後も周囲の支えへの感謝を忘れず、来年はさらに良い試合ができるようチーム一丸となって努めてまいります。

11 位

北海道今金高等養護学校

担当　垂石　純尚

今大会に向けては、勝利の追求はもちろん、チームの「和」を最優先に日々の練習に励んでまいりました。新たな戦術や慣れない動きにも果敢に挑戦し、練習を重ねる中でフットサルらしい形が表現できるようになり、生徒たちも手応えを感じていたようです。

本番では練習の成果が随所に発揮され、大きな自信につながりました。試合を重ねるごとに「次はこうしよう」と、選手同士で自主的に意見を交わす姿には著しい成長を感じました。同世代との真剣勝負は素晴らしい刺激となり、試合後に互いを称え合うスポーツマンシップを体感できたことも今大会の大きな収穫でした。

結果は11位となりましたが、選手たちの主体性と絆が大きく深まった大会となりました。この経験を糧に、来年はより上位を目指して練習に励んでまいります。今後とも応援をよろしくお願いいたします

12 位

北海道釧路鶴野支援学校

フットサル部顧問　上野　太郎

本校は男子３人、女子３人の計６人での参加でした。初戦は近くの味方にゴールキーパーからパスを出したところを相手チームに狙われて失点することが多かったですが、当初の目標であった「最後まであきらめずにプレーする」を生徒全員意識して全試合よく走り、体を張って守ることができました。２戦目からはハーフラインまで投げることを徹底させたことで、安易な失点を防ぐことができました。昨年は１点も取ることができなかったのですが、今年は１年生エースの活躍で合計５点も取り、１勝することができ、総合順位12位だったので、自信になったと思います。３年生２人が卒業すると１・２年生が４人しか残らないので、また来年参加できるよう、新入生を最低１人、できれば４人集めることができるよう頑張ります。

公益財団法人明日佳様には毎回、都市間高速バス代や宿泊費など補助していただき感謝しております。今年は試合会場や宿泊場所も変更になり、冷房の効いた環境で暑さに弱い釧路っ子の生徒たちも熱中症にならずに済みました。大変お世話になり、ありがとうございました。

13 位

北海道函館高等支援学校

顧問　髙橋　直樹

今年もフットサル大会に参加し、選手たちの試合での戦いぶりを通して、これまでの練習の成果と成長を感じることができました。

大会に向けては、基礎的な技術練習に加え、パスやシュート、ボールを持っていないときの動きなど、試合を意識した練習を繰り返し行ってきました。また「最後まで諦めないこと」「仲間と声を掛け合うこと」を大切にし、一人一人が自信をもってプレーすることを意識して大会に臨みました。試合では苦しい場面でも積極的にボールを追い、仲間のために走る姿や、失敗しても気持ちを切り替えてプレーする姿が多く見られました。

大会を通して技術面だけでなく、仲間と協力することや最後まで粘り強く取り組むことなど、精神面でも大きく成長したと感じています。来季は今大会で得た経験を生かし、個々の技術をさらに高めるとともに、チームとしての連携を深め、より自信をもって試合に臨めるチームを目指したいと思います。

大会運営に携わっていただいた公益財団法人明日佳グループの皆様をはじめ、多くの方々のおかげで素晴らしい大会に参加できたことを心より感謝申し上げます。

14 位

北海道札幌高等養護学校

監督　山本　健之

今年も小野寺眞悟杯北海道特別支援学校フットサル大会に参加することができ、大変嬉しく思います。今大会では会場が北翔大学浅井記念館に変わり、新鮮な気持ちで参加することができました。会場は空調設備も整い、暑さ対策を気にすることもなく試合に臨むことができました。運営にご尽力いただきました関係者の皆様には感謝申し上げます。

年度当初、本校のサッカー部員は新入部員の入部も遅れている状況もあり、３名と少ない状況でした。そのため、他の運動部からこの大会への参加希望者を募り、どうにか人数を揃えての参加となりました。ルールやボールに慣れることから始めるため、５月からサッカー部員以外にも練習に参加してもらい、どうにか試合ができるまで準備を進めてきました。

いざ大会に参加し熱気をおびた会場で試合を重ねると、参加経験のない選手も次第にスポーツの楽しさやチームワーク意識に気付いていく様子が今年も見ることができました。最後は笑顔で「楽しかった」「もっと勝ちたかった」という言葉を聞くことができ、ここにこの大会の魅力があると思います。

選手たちにとって貴重なこのような機会が今後も継続されることを切に願います。

15 位

北海道美深高等養護学校あいべつ校

教諭　岡野　俊平

今回の大会は15位という結果でありましたが、初めての大会・初めての公式戦という緊張感のある状況の中で、初戦から初得点・初勝利を挙げるなど、生徒たちが今持てる力を発揮する場面が多く見られました。

その後は連敗が続いたものの、試合を重ねる中で「このポジションで戦いたい」「最初はこの戦術でいきたい」など、生徒自身から主体的な意見が挙がるようになり、指示を待つ姿勢から大会コンセプトである「自立」を体現する行動へと変化していきました。

また、最終戦まで「戦う姿勢」と「フットサルを楽しむ気持ち」が途切れることなく、仲間と声を掛け合いながら最後まで前向きに取り組む姿が印象的でした。

結果以上に、生徒一人ひとりの主体性や挑戦する姿勢が大きく育った、学びの多い充実した大会となりました。

16 位

北海道小樽高等支援学校

サッカー部顧問　鈴木　宏和

今年度、小樽高等支援学校サッカー部の部員数が４名と激減し、今回の大会出場を見送ろうと考えていました。しかし、選手達から少ない人数でも大会に参加してみたいとの声があがってこともあり、３名で練習を開始しました。はじめてフットサルをする選手もいましたが、「仲間と楽しく取り組む」ということを目標に掲げ、今大会に望んだわけです。

全敗という結果ではありますが、１点でも多く相手チームから取れただけでもものすごい価値あることかと考えていますし、なによりも選手たち笑顔を見られたことが一番の収穫かと思っています。

また、３人の頑張る姿を見てサッカー部へ入部したいと実際に入部してきた生徒たちも数名いたこともあり、大会に出場した選手たちにとっては自己有用感が高められたのではないかと思います。

17 位

北海道小平高等養護学校

スポーツ部　顧問　北林　雅貴

今大会を振り返り、選手たちは最後まで諦めず、一人一人がチームのために力を尽くす姿を見せてくれました。今年の目標は「３勝」することでしたが、結果は２勝となり、目標には届きませんでした。しかし、目標達成に向けて最後まで全力でプレーすることができました。

大会に向けては、６月から基礎練習やパス、シュート、ゲーム形式の練習などに取り組み、試合を意識した練習を重ねてきました。また、技術面だけではなく、仲間への声掛けや最後まで諦めずにプレーすることを大切にして大会に臨みました。

活動を通して、仲間と協力する姿勢が身に付き、周囲の様子を見ながら声を掛けたり、仲間を気遣ったりするなど、相手を意識して行動する姿が多く見られるようになりました。フットサルの技術だけではなく、仲間と協力することや相手を思いやる気持ちを育むことができました。

本大会では、試合中のコーチングが禁止されているため、選手同士で声を掛け合い、自ら考え判断し、行動する力を育む貴重な機会となっています。選手の自主・自立を促す中で、指導者としても支援の在り方を学ぶことができました。

来季は３勝を目標に取り組んでいきたいと思います。

18 位

北海道中標津支援学校

監督　西村　龍馬

昨年度より部員が３名増え、今年の大会は、８名で参加しました。大会に向けた練習では、「得点を決めること」「１勝すること」を目標に掲げ、日々基礎練習に励むとともに、先生方との練習試合にも取り組んできました。チームとしては、個人技や総合力の面でまだ課題はありますが、一人ひとりが真剣に練習に取り組み、良い結果を残せるよう、練習最終日まで部員全員で力を合わせて頑張ってきました。

大会当日は、他チームの勢いやレベルの高さに驚き、戸惑う場面もありましたが、自分たちにできることを最後までやり抜きました。守備では全員が自陣まで戻り、ボールを奪った後はドリブルやシュートを得意とする選手を中心に攻撃を展開することをチームの方針として試合に臨みました。実戦形式の練習が少なかったため、全体の動きにぎこちなさは見られましたが、全員で走り、積極的にボールを奪いにいく姿勢はどの試合でも共通して見られました。その結果、大会参加以来初めての１勝を挙げることができ、部員一同、大きな喜びを感じとることができました。

今回の大会に参加するまで、生徒たちは多くの方々に支えられながら練習に励んできました。また大会当日には保護者の皆様や先生方が会場に足を運んでくださり、生徒たちへ温かい声援を送ってくださいました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今後も今大会で得られた成果と課題を生かし、部員一同、さらなる成長を目指して練習に励んでまいります。

19 位

北海道中札内高等養護学校幕別分校

スポーツ部顧問　相場　和之

本校の「スポーツ部」は多様なスポーツに触れ、楽しさや喜びを味わうことを目的に活動しており、大会前になるとフットサルに集中して取り組みます。ゲームを中心とした練習を毎日行いますが、はじめはボールを止める・蹴るといったことも満足にできませんでした。しかし、継続することで、点数の入れ方を考えながらゲームができるようになりました。

大会では、結果として勝利をつかむまでに至りませんでしたが、どんなに実力差がある相手に対しても「次の１点」を目指し続ける姿勢に生徒の成長を感じました。また、同じ特別支援学校の同年代の相手を「すごいなぁ」と感じることで、自分たちもまだまだやれるぞと自信や新たな目標を得ることができ、来年に向けてのモチベーションにもなりました。さらに、ベンチからのコーチングがないことで、「相手ＧＫがボールをもったら走って下がろう！」「誰が下がる？」のようなやり取りが自然と起こり、我々が何を言わずとも、環境とヒントがあれば生徒は自ら考えていけると私自身も学ぶことができました。

大会を通じて生徒が様々なことに気がつき成長することができました。

運営の皆様の多大なるサポート、誠にありがとうございました。

小野寺眞悟杯フットサル大会
基本コンセプト

○ 自立への願い

公益財団法人明日佳は、特別支援学校の多くの生徒が、卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるように、生徒の主体的判断を尊重する大会を目指しています。

このため本大会は、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止しています。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある行動を期待しています。

○ RESPECT への願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT「他人への思いやり」があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判への RESPECT 行動を具体的に示す大会を目指します。

このため会場では、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒と先生、審判、大会関係者などには RESPECT を表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な礼儀や言葉遣いを行うことを期待しています。

選手宣誓

宣誓

我々選手一同は、全国大会を目指し、仲間と共に汗を流し、努力をしてきました。時にぶつかり合いながら成長し、今日という日を迎えることができました。

いつも一緒に練習してきた仲間、支えてくださった家族や先生方、この大会を開催していただいた関係者の皆さまに感謝の気持ちを持ち、リスペクトの精神を忘れず、全力で戦うこと、正々堂々とプレーすることを誓います。

令和８年７月２５日
選手代表
北海道白樺高等養護学校
サッカー部キャプテン　小堀　　司

大会長　挨拶

公益財団法人明日佳理事長　小野寺　眞悟

祝　辞

江別市長　後藤　好人　様

表　彰

＜カテゴリーⅠ＞　　（公財）明日佳、（公財）日本ライオンズより

＜カテゴリーⅡ＞　　（公財）明日佳、（公財）日本ライオンズより

昼食時の様子

カレッジホール　ＰＡＬ　カフェテリア

明日佳グループ

北海道

病院	5軒
健診センター	2軒
老人ホーム	3軒
介護施設	1軒
障がい者就労施設	2軒
スポーツクラブ	1軒

埼玉

病院	1軒
介護施設	1軒

東京

クリニック	2軒
在宅支援	5軒
通所介護	1軒

神奈川

通所介護	2軒
総合事業	1軒

■事業内容

医療事業

札幌明日佳病院
白石明日佳病院
桜台明日佳病院
岩見沢明日佳病院
宮の沢明日佳病院
埼玉あすか松伏病院(埼玉)

健診事業

札幌健診センター
札幌きたはち健診センター

リース事業・人財管理事業

株式会社メディカルサポート

介護・在宅ケア事業

【介護】
特別養護老人ホームあすかHOUSE 手稲
特別養護老人ホームあすかHOUSE 白石
特別養護老人ホームあすかHOUSE 中央
介護老人保健施設あすかHOUSE東苗穂
介護老人保健施設あすかHOUSE松伏(埼玉)

【クリニック(訪問診療)】
明日佳クリニック荻窪(東京)
明日佳クリニック鶴川(東京)

【訪問看護】
あすか訪問看護ステーション(東京)
あすか訪問看護ステーション都立大学(東京)

【居宅介護支援】
あすか居宅介護支援事業所鶴川(東京)
あすか居宅介護支援事業所都立大学(東京)
あすか居宅介護支援事業所荻窪(東京)

【通所介護】
あすかフィジカルセンター鶴川(東京)
あすかフィジカルセンター町田(神奈川)
あすかフィジカルセンター南林間(神奈川)

【総合事業】
あすかフィジカルセンター千代ヶ丘(神奈川)

障がい者就労支援事業

ワークトピアあすか中央
ワークトピアあすか

特別支援事業

公益財団法人明日佳

スポーツ事業

エスポラーダ北海道(フットサルチーム)

明日佳グループ